国立研究開発法人
水産研究・教育機構

プレスリリース

令和 8 年 11 月 6 日
国立研究開発法人水産研究･教育機構

水産研究・教育機構第 23 回成果発表会の開催について
海で何が起きているのか
―資源の変化から考える、日本の海と食卓の未来―

国立研究開発法人水産研究・教育機構は、さまざまな形で調査研究の成果の普及に努めています。そのひとつとして、広く一般の方々を対象とした成果発表会を開催しています。

第 23 回となる本年度は、海で何が起きているのか―資源の変化から考える、日本の海と食卓の未来―と題した発表を行います。成果発表会は会場とオンラインのハイブリッドで開催いたします。

なお、会場の定員（先着 50 名）に達した場合、オンラインでの参加にしていただくことがございます。

発表会当日の様子は、後日 YouTube チャンネル FRA 水産研究・教育機構（https://www.youtube.com/@frachannel）で公開予定です。

日　　時	令和 8 年 12 月 17 日（木）13：30～17：00
場　　所	水産研究・教育機構　横浜庁舎　講堂 （神奈川県横浜市金沢区福浦 2-12-4）
発表内容	基調講演　海の変化と水産資源－海の変化に対する水産業の適応と私たちにできること－ 水産資源研究所　底魚資源部　副部長　木所 英昭 第 1 部 気候変動でのイカをめぐる変化と新たなイカの選択 ・いま、イカをめぐって何が起きているのか　スルメイカ資源の現状と研究 水産資源研究所　浮魚資源部浮魚第 3 グループ長　境　磨 ・イカをめぐる変化は食卓にどう影響するのか　加工・流通の現場で起きていること 水産大学校 水産流通経営学科講師　刀禰　一幸 ・再び注目される“アカイカ”　漁場探索から利用拡大まで 開発調査センター 漁業第三グループ研究員　鈴木　大智 第 2 部　環境変化へあわせた養殖 ・ブリ人工種苗の安定供給体制について 開発調査センター　養殖システムグループ主任研究員　北野　載 ・近年の有害赤潮発生の特徴と発生予測・被害軽減に向けた研究開発 水産技術研究所　有害有毒藻類グループ　任期付研究員　矢野諒子

(1)参加申込方法

・参加登録はホームページ掲載の参加申込フォームよりお申し込みください。
【第 23 回成果発表会　ホームページ】
https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/event/event.html#seika



・申込後に受付完了メールが自動返信されます。
・当日は受付に上記のメールを印刷したものか、メール画面をご提示ください。

(2)定員

・会場参加先着 50 名
・オンライン参加 3,000 名

(3) 留意事項

・FAX および電話でのお申込みは受け付けておりません。
・複数名でご参加の場合も、お一人ずつ参加申込みフォームからお申込みください。

（オンライン参加の場合）

・申込みフォームにご入力いただいたメールアドレス宛てに参加用 URL をお送りします。
・本会議は Teams 環境がない方でもご視聴いただけます。参加用 URL からブラウザでご視聴ください。なお、インターネット接続に係る通信料は参加者ご自身のご負担となります。
・スマートフォンでのご視聴の場合、Teams のアプリケーションをご用意いただく必要がございます。
・本会議への参加に必要な機器・通信環境は参加者ご自身でご用意いただき、安定した通信環境の下でご参加ください。
・オンライン参加用 URL の第三者への転送や、録画等の行為は行わないでください。

（会場参加の場合）

・会場内では写真撮影が可能です。
・報道関係者の皆様には、会場内にプレス席をご用意しております。
・撮影の際は、他の参加者の妨げとならないようご配慮をお願いいたします。

(4) 申込締切

令和 8 年 12 月 15 日（火）
※オンライン参加の方は 12 月 17 日（木）の開催当日でもお申込みいただけます。

本件紹介先：
国立研究開発法人水産研究・教育機構
（広報担当者）本部経営企画部　広報課
TEL 045-277-0136　E-mail:fra-pr@fra.go.jp